

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000120		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター東大阪加納(ひばり)		
所在地	大阪府東大阪市加納1丁目4番22号		
自己評価作成日	平成24年7月31日	評価結果市町村受理日	平成24年11月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JivovsvoCd=2795000120-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=">http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JivovsvoCd=2795000120-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成24年9月14日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気のあるスタッフと共に生活し、利用者様は毎日楽しく穏やかに過ごされています。1階にはウッドデッキがあり、そこから菜園が見えます。菜園では季節の野菜や花を植え、利用者様に収穫をしていただいたり、収穫した野菜を皆さんで食べていただいております。  
日々の利用者様のケアについては、スタッフとの共同生活の中で信頼関係を築くと同時に、要望や意見をスタッフに言ってくださいます。それらを基にして、介護計画に反映させています。  
行事はほぼ毎月1回行事を行っており、普段とは違う雰囲気の中でアクティビティを楽しんでいただいております。医療連携も充実しており、往診医や訪問看護による定期的な往診を通して、健康面でも安心していただけるよう支援しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは法人の理念を基に、ホームの誓いを掲げ人の立場に立って考える事や尊厳を守ってケアする事等を大切に支援しています。一人ひとりの利用者との関わりを深め、職員間で話し合う機会を多く持つ事で、それぞれの思いの把握に繋がり、利用者のペースで穏やかに過ごすことができている。また、ケアの事だけではなく日常の業務についても職員の意見を反映し、個々の意欲向上に繋がっています。看取りの支援の経験があり、家族や医師、訪問看護師、職員とが話し合いを重ね、ホームでできることを行政や法人に確認しながらチームケアで方針を共有し取り組んでいます。また、今年度、自治会に加入した事をきっかけに、回覧板を回し近所付き合いができるようになったり、行事等の情報が増え福祉委員が開催するふれあい喫茶にも出かける等、地域交流を深めているホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に管理者とスタッフが社是・経営理念の唱和を行い、実践につなげている。	法人の社是や経営理念の基、ホームの4つの誓いを掲げ、職員の行動についての方向性を示しています。ホームの会議の中で、理念や誓いの実践ができるよう話し合ったり、振り返りを行っています。	利用者にとってどのような暮らしの提供を目指しているのかを話し合い、ホーム独自の理念を掲げられてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や他事業所による会議・研修会に参加し交流を図っている。また、地域の盆踊りやふれあい喫茶に参加するなどしている。ホームの夏祭りでは、地域のボランティアの方々が参加され、交流を図る事が出来た。	今年度、自治会に加入した事をきっかけに、回覧板を回し近所付き合いができるようになったり、行事等の情報が増え、福祉委員が開催するふれあい喫茶にも出かけています。近隣の小学校から音楽祭の招待を受け見に行ったり、中学生の職場体験を受けるなど、子ども達と交流もしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	電話や来訪にてグループホームの入居に関する相談を受けている。また、運営推進会議では、当施設の状態を報告し、地域の方々に発信できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族様・地域包括支援センター・近隣の事業所様に参加していただき、当施設に関する意見やご相談をいただいている。それらを基に、サービスの向上を行っている。	会議は2か月に1回、家族や地域の他事業所の職員等の参加の下開催されています。ホームの行事や運営状況等の報告を行い、医療連携について等テーマを決めて話し合っています。質疑の内容や課題の経過を議事録に残し、参加者や家族に伝えています。今後民生委員の参加も予定しており、更に有意義な会議になるよう考えています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法改正や変更届の提出の際は、その都度市の担当者と相談し、協力していただいている。また、東大阪介護事業者連絡協議会にも参加している。	市の担当者とは、制度でわからない事があつたり手続きの際に、直接市役所に行き相談しています。看取りの支援について、医療連携も含めホームでできる範囲のことをアドバイスをもらい取り組む等、協力を得ながら運営に活かしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事例は無いが、委員会活動の中に身体拘束の防止を取り込み、年に1回以上は当施設内にて身体拘束防止の講習会を開催している。	身体拘束委員会を中心にホームで研修を行い、全職員が理解できるように取り組んでいます。玄関は鍵を掛けず、各ユニットは施錠していますが入り口横にある事務所を通り自由に行き来できています。利用者が外出したい様子があれば、一緒に寄り添い外に出る等拘束感の無い暮らしを支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政及び当社主催の研修会への参加や、当施設での独自の研修会を通し、高齢者虐待防止について学習する機会を持っている。また、マニュアルを全スタッフが閲覧可能な場所に置き、いつでも目を通せるようにしている。		

ニチイケアセンター東大阪加納(ひばり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されている利用者様もおり、後見人制度や日常生活支援事業について学ぶ機会をホーム独自の研修会でやっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やご家族様に理解・納得して頂けるように、説明することを心掛けている。また、改定等の際は、利用者様や家族様への説明を十分に行い、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を開催の際は、全家族様に連絡を行い、利用者様やご家族様からの意見や要望を言っていただける場を作っている。また、玄関にはご意見箱を設置している。	家族の来訪時や月に1度は電話で連絡を取り、意見や要望を聞いています。運営推進会議でも活発に意見を出してもらっており、外出行事についての提案には、ホーム会議で話し合っ実施するなど運営やサービスに活かしています。また、法人によるアンケートも年に1度行っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議やユニット毎の会議を毎月開催し、職員の意見や提案を聞く場を設けている。また、日常的な会話から、スタッフの個別の意見や要望を聞くよう心がけている。	職員は月に2回は出席する会議があり、意見や提案を出す機会を持っています。残業を減らすために業務改善案を出し合ったり、他のホームを見学してケアに反映したいとの意見があがっています。日々申し送り時等にも意見を出したり、必要時は管理者が個人面談を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社の昇給制度を用い、職員の努力や実績を評価し、給与水準の向上に努めている。また、時間外労働時間削減について、ホーム会議等で話し合いを行い、成果を出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修を通して、職員に研修を受ける機会を作っている。また、法人外の研修の情報も提供し、参加する機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣事業所の運営推進会議や行事、事業者部会に参加し、情報交換や協力体制の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時において、本人様にはしっかりと意見を聞くようにしている。また、入居までの間に本人様にお会いする機会を多く持ち、信頼関係を築き、安心して頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が今まで困っておられた事、不安、要望などをお聞きし、受け止めた上で出来る限り応えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様が、求めておられるもの、必要としておられるものを見極め、その方に合った支援が行えるようにしている。グループホームはひとつの選択肢として判断して頂くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様には出来るだけ自力での生活をしたいだけできるよう、家事や身の回りの事をスタッフと共に行っている。また、利用者様から温かい言葉を頂いたり、お互いに支え合いながら生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様にも利用者様と外出していただいたり、利用者様に対するサービスの向上に関してのアイデアを共に考えながら、利用者様を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様がこれまで大切にされていた事や馴染みの人、場所など、話しやすいように声掛け、傾聴、共感するようにしている。また家族様の協力を得ながら外出や面会をして頂いている。	以前から好きな歌手のファンクラブを継続していけるように支援したり、よく行っていた公園に行事として出かけています。家族と電話したり、手紙のやり取りができるように支援しています。家族の他、親戚の来訪もあり、これまでの関係継続できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の性格を理解しながら、利用者様同士がより良い関係が築けるように支援している。		

ニチイケアセンター東大阪加納(ひばり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も電話で近況を尋ねたりしている。家族様から相談があれば、その都度応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中での言動や行動から、一人一人の暮らしの希望を汲み取るようにしている。自ら発言したり行動する事が難しい方には、家族様から意向を聞くようにしている。	利用者の生活歴や好み等の情報を基に、日々の暮らしの中で観る様子や言葉から思いを把握しています。表現の困難な場合は、家族に聞いたり表情等から汲み取り、サービス担当者会議で話し合い本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを用いて、入居以前の生活歴や暮らし方を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の心身状態を把握する為、専用のシートに情報を記入している。また、食事・水分・バイタル・排泄等の状況を記録し、利用者様の様子に注意している。それらを基にスタッフ間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎、または状態が変化した場合に応じてカンファレンスを開催し、ケアプランの作成を行っている。利用者様、家族様が話し合いに同席できない場合は、作成後に必ず同意を得ている。	本人の思いやアセスメントを基に、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成しています。毎月計画担当者が中心になりモニタリングを行い、3ヶ月毎に再アセスメントを行い、医療情報や家族の意向も確認しサービス担当者会議を開催して見直しを行っています。状況に変化があれば、その都度見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にはケアプランに沿った支援の実践・結果を記録している。記録には日頃の様子や本人が言った言葉を記入しており、それを基に申し送りを行い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームで一緒に食事をして頂ける機会を提供したり、ホームで家族様の宿泊が必要になった時は和室を利用して頂くなど、柔軟な対応が出来るように心掛けている。		

ニチイケアセンター東大阪加納(ひばり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の神社や公園へ散歩に行き、地域住民との挨拶もしっかりとかわしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調不良があった場合は、その都度主治医との連絡を図っている。緊急時にも対応しており、隔週での定期往診も確実に受けている。他の医療機関での対応を希望される場合は、家族様の協力をいただき、医療連携を行っている。	以前からのかかりつけ医の継続も可能であることを説明し、受診は家族が対応し必要時職員も同行しています。協力医は月に2回の定期的な往診があり、往診結果を記録に残し職員間で共有しています。週に1度の訪問看護や歯科の往診を受け、24時間協力医に相談できる体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の定期訪問や、個別の利用者様の往診時に利用者様の様子を報告しており、体調不良等にも迅速に対応することができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族様との連絡を密に行い、必要があれば一緒に主治医の説明を聞く等の対応を通して、利用者様の早期退院に向けた行動を家族様と共に行っている。また、利用者様の面会も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様や家族様が望む人生の最期を迎えていただけるよう、主治医や訪問看護、スタッフと相談を行い、終末期のケア方針を決定している。	入居時に重度化した場合における対応に係る指針について説明し、看取りに関する考え方も含め伝えていきます。重度化に伴い、医師と家族とホーム等とで繰り返し話し合いを持ち、家族の思いに沿って看取りの支援も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を表にまとめ、全職員がいつでも閲覧できる状態にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団の消防訓練にも参加し、協力体制を築いている。また、緊急避難時のハザードマップの作成と掲示を行い、年2回の避難訓練を実施している。	年に2回避難訓練を行い、1回は消防署に来てもらい避難誘導や通報装置の使い方、初期消火等を実施しています。自主訓練時にも避難誘導を実施し、ホームで3日分の備蓄も準備しています。地域の消防団の防災訓練に職員が参加し、自治会の名簿に入れてもらったり災害時に協力が得られるよう働きかけています。	

ニチケアセンター東大阪加納(ひばり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の中に一人一人の人格を尊重する旨を入れ込み、利用者様のプライバシーを侵害しないよう対応している。	ホームの会議で接遇について勉強会を行い、言葉遣いや子ども扱いはしない事等、職員全員に周知できるように取り組んでいます。脱衣室は扉だけではなくカーテンも取りつかけたり、居室への入室時のノックや声かけにも配慮しています。不適切な対応があれば朝礼で職員に問題提起し、改善に向けて話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に対し、スタッフから積極的にコミュニケーションをとり、利用者様が自己決定しやすい環境づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様がしたい事、してほしい事を傾聴にて聞き、要望に沿ったケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	極力利用者様に衣服を選んでいただけるよう支援している。また、訪問理容やお化粧を通し、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にも配膳や食器拭き等のお手伝いをしていただき、スタッフと一緒に準備を行っていただけるよう支援している。また、利用者様の好みを反映する為、週2回の頻度でスタッフでメニューを考えている。	業者からメニューに沿って食材が届けられ、食事の準備や片付けができる方に携わってもらっています。週に2回ホームでメニューを考え、買い物から調理をしたり、利用者の希望を聞いて行事食に取り入れています。ホームの畑で収穫した野菜が食卓に上がったたり、行事にすし職人に実演してもらおう等、利用者の楽しみとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを使用し、一人一人の食事量や水分量を把握している。不足があれば栄養のある食品や飲料にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、自力でのケアが難しい方に関しては、一部介助もしくは全介助にて対応している。口腔内に異常があれば、訪問歯科への連絡と往診を受けている。		

ニチイケアセンター東大阪加納(ひばり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意や便意を感じる事が難しい利用者様に対しては、排泄パターンを把握し、定期的にトイレの声掛けを行っている。また、自力での排泄が困難な方もトイレにて排泄を行っていただけるよう支援している。	排泄チェック表を利用し排泄のリズムを把握し、個々の利用者に合わせてトイレに誘導しています。また、個々のできることを大切にしながら、後からパッドの確認をしたり、失敗が少なくなった方にはパッド等の形態を変更する等、自立できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対応として、水分補給や適度な運動、腹部マッサージを行っている。また、オリゴ糖の使用や消化の良い食材を使用した料理の提供に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間はある程度設定しているが、入浴のタイミングや時間を利用者様本人に決めていただいている。	週に2~3回曜日を決めて入浴できるようにしており、午後の時間帯で好きな時間に入れるようにしています。入浴のない日は足浴をしたり、季節の菖蒲湯等を行い入浴が楽しめるように支援しています。拒否される利用者には、言葉のかけ方やタイミングを図るなどの工夫して入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転を予防しつつ、利用者様に合わせて昼寝の時間を提供したり、好きな時に自室で横になってもらえるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人に薬手帳を作っており、利用者様がどのような薬を飲んでいるか、理解している。また、毎日の様子観察やバイタルチェック、医療連携を通し、利用者様の症状の変化を逐一確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別に役割を持っていただけるよう、洗濯物たたみや食器拭き等の家事を提供している。また、毎日楽しく過ごしていただけるよう、個別に歌や塗り絵等のレクリエーションを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天気等を考慮し、利用者様に無理のない範囲での散歩や外気浴、外出を行っている。また、家族様による散歩や外出も定期的に行っていただいている。	毎日天気や気候の良い時には散歩に出かけています。広い庭やウッドデッキに出て外気浴をすることもあります。家族も一緒に出かけられる花見や外食等の行事を多く企画し、普段に行けない場所にも出かけています。	



ニチイケアセンター東大阪加納(ひばり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様が個人で金銭を所持・使用したいとの要望があった場合は、ご家族様と相談した上で所持していただくかどうかを判断させていただき、極力利用者様の希望に添えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望があれば、家族様と連絡できるよう支援している。 また、利用者様の様子を知っていただけるよう、隔月で家族様に利用者様の状況報告書を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に関しては、スタッフにて毎日清掃を行っており、清潔な空間作りをしている。また、利用者様と一緒に環境整備を行い、本人の希望に添った空間づくりを行っている。	1階のリビングから広い庭が見え、季節の移り変わりが感じられ、壁には行事の写真や利用者の好きな歌手のポスター、利用者の作品等が飾られ、利用者が楽しめる空間となっています。廊下に椅子を並べたり、和室も利用して個々に好きな場所で過ごせるように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室やキッチンを自由に使いいただき、洗濯物たたみ等の家事や他者との会話を通して、ゆっくりと過ごしていただいている。また、各所にベンチやイスを配置し、好きな場所でくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前より使用していた物を持って来ていただき、馴染みのある物や使い慣れた物に囲まれ、居心地のよい環境作りを行っている。	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうように伝え、タンスやベッド、テレビ等を持ち込み、家族と相談しながら配置を考えて暮らしやすくしています。家族の写真やぬいぐるみ、自身で作った作品、趣味の道具を置き、落ち着いて過ごせる空間作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室に手すりを設置し、極力利用者様が自力で生活をしていただけるよう、支援している。また、各所に目印をつけている。		